

新規就農者との連携で目指す

100年先もつづいていく農業

株式会社坂ノ途中



代表取締役 おのくにひこ 小野邦彦

日本の農業は就農者の高齢化などで耕作放棄地が増え続けている。その一方で、新たに農業を始めたいという新規就農者や希望者も増えており、その大半が有機農業など、環境への負荷が小さい農業に取り組んでいる。

新規就農者は、各々が野菜について研究、勉強しており、高品質の物や特色のある野菜を栽培している事が多い。ただ、農地条件の悪さなどから収穫が少量で不安定であるため、既存の流通には採用され難く、経営は安定していないのが現状である。

株式会社坂ノ途中は、新規就農者が生産する高品質、特色のある野菜をセット販売することにより、経営を安定させる取り組みを行い、現在の提携農家は約350軒にのぼる。

「環境への負荷が小さい農業」「100年先もつづく、農業を。」を標榜し、新しい挑戦を続ける思いを小野邦彦社長に聞いた。

野菜は生き物、不揃いを楽しむ

2009年に起業した株式会社坂ノ途中が展開する「旬のお野菜セット」は、提携する約350軒の就農者が環境への負荷が小さい農法で栽培した野菜の定期便である。年間450種類を超える多様な野菜がバランスよくセットにされ、現在、全国約1万世帯へ届けられ、利用者は毎年増加している。その理由について、小野社長は、「美味しさ」や「楽しさ」そして「野菜は生き物」を再認識する事が出来る点と語る。

「美味しさ」とは、一つひとつの野菜の味がしっかりしていること、「楽しさ」とは、四季に応じ、伝統野菜から流行りの西洋野菜までバラエティ豊かなことである。

そして、この商品の最大の特徴は「野菜は生き物」である点だ。同社のサービスでは、気候や土壌によって形状が不揃いとなりブレが生じることを予め伝えている。例えば、雨続きのあとに収穫したミニトマトは水分過多となり形も不揃いで、割れやすくもなる。不揃いなトマトが出来る理由を説明する事により、利用者は、改めて「野菜は生き物」であることを再認識できることを「喜ばれる」と小野社長は話す。

「多様性を排除しない」「ブレを楽しむ」そのよれるものの、活動自体は広がらず、自治体の関心が高まることもなかった。

「このままではダメだと方向転換を図りました。出資を募り、その資金で自分達が社会的な影響力を持つ会社になろうとしたのです」

農業ビジネスは短期間での成長が期待しにくい。そのため投資家たちからは「投資対象にならない」と断られることも多かったが、一方で社会変革や地域活性化に関心を寄せてくれる投資家も少なくなく、事業成長に合わせて数回の資金調達が可能となった。

現在の出資者は、野菜の定期便の顧客が増えるとともに数や投資額が増加し、大手食品メーカーからの出資も実現した。

もう一度見つめ直す

農林水産省は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、2021年に「みどりの食料システム戦略」を策定し、2050年までに有機農業に取組む面積を100万ヘクタールに拡大するという

うな文化を育てることにより、新規就農者の負担は軽減でき、ひいては「100年先もつづく、農業を。」につながるという。

「坂ノ途中」という社名には、成長途上にある新規就農者のよきパートナーでありたいという思いが、そして、同社のロゴマークには生物多様性を示すナナホシテントウが描かれている。

社会的インパクトのある企業に

小野社長が日本の農業に危機感を感じたのは、大学を休学し、バックパッカーとして中国からトルコへと旅を続けていたときであった。その途中、チベットの遊牧民がヤクの糞で燃料を作り、乳を温めている様子、自然の物を活用している姿に感動したという。一方、日本に目を向ければ、農業や化学肥料の散布で土壌に負担をかけ、また、化石燃料を使って暖房したビニールハウス内で野菜を栽培している。こうした農業は持続可能なのかと疑問を持ち環境負荷の小さい農業に取組みたいと考えようになった。

「僕は学生時代に着物の古着を販売する店舗運営に関わっていました。それなりに盛り上がり、事業を通じて大切にしたいメッセージを発信する目標を掲げている。また、各自治体も新規就農者の誘致に積極的に乗り出している。坂ノ途中社にとっては追い風が吹いているといえよう。しかし、同社は「100年先もつづく、農業を。」というビジョンに立ち返り、同社の役割を改めて見つめ直すため、2021年の年末に、新規就農者の実態調査などを目的とした「坂ノ途中の研究室」を立ち上げた。

環境負荷の小さい農業を、そのためには新規就農者の支援をという思いを貫く小野社長に、起業に対する考えをうかがった。

「自社を語る際などに、『わかりやすいだろう』という理由で、世の中に流布しているような言葉を使わないことですね。特に農業は多面的で『貢献する』といっても、そのテーマもアプローチ方法もさまざまです。自分の思いを凝縮した言葉を使っていれば、確かな賛同者が得られると思います」

「100年先もつづく、農業を。」というビジョンも、スタッフと共に議論を重ねて生み出した言葉である。

「旬のお野菜セット」



スーパーでは見かけない珍しい野菜が入っているのも楽しみのひとつ。

新規就農者と共に



提携農家にはスタッフが定期的に訪れている。

株式会社坂ノ途中

設立：2009年7月
資本金：657百万円（資本準備金含む）
従業員：約150名（うち半数程度がアルバイトスタッフ）

所在地：本社 〒601-8101
京都市南区上鳥羽高島町56

TEL：075-200-9773

事業内容：
新規就農者を中心とした提携生産者が栽培した農産物の販売など。



多様性を認めるなどの思いが込められたロゴマーク